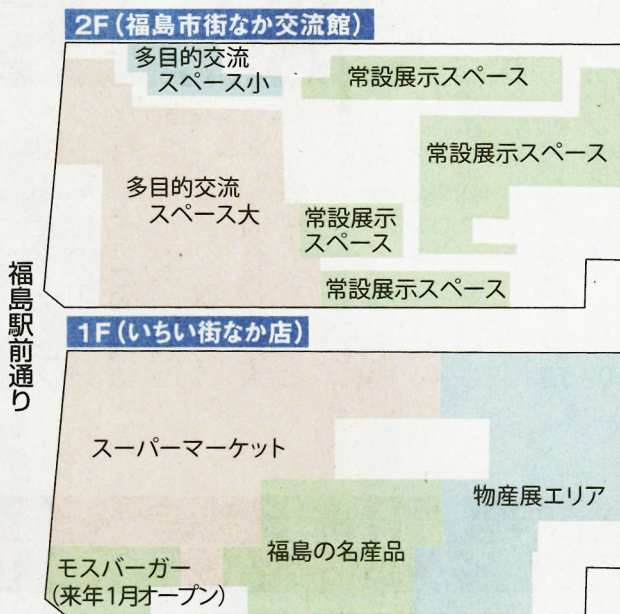


来月15日オープンへ

中合空きビル



1階 スーパーや物産展 2階 常設展示スペース

福島市は13日、8月に閉店した中合福島店の入居していた空きビル（辰巳屋ビル）を活用する商業施設と交流・展示施設を12月15日にオープンさせると発表した。1階はスーパー「いちい」（福島市）が入居し「いちい街なか店」として営業。2階は同市出身の作曲家古関裕而がテーマの展示などを備えた「福島市街なか交流館」とする。

木幡浩市長が臨時記者会見で発表した。フロア配置は【図】の通り。1階は「スーパーマーケット」、地元

の農産物や特産品を扱う「福島の名産品」、定期開催の「物産展」、ハンバーガーチェーン「モスバーガー」（来年1月オープン）の4エリア。スーパーはいちいの各種店舗の特長を生



にぎわい創出へ意気込みを語った木幡市長（左）と伊藤社長

かした品ぞろえとし、JAふくしま未来、市内の飲食店などと連携する。物産展は12月が本県（15～20日）と北海道（23～29日）、年明けは九州を予定する。

2階は福島まちづくりセンターに運営を委託。古関裕而に関する展示、震災と原発事故からの復興の様子

を紹介するパネル展を開催する「常設展示スペース」、一般に貸し出してイベントなどの会場に利用できる「多目的交流スペース」を設ける。1階、2階とも活用する期間は2022年2月未まで。元日を除いて毎日営業・開館する。

中合はJR福島駅東口周

辺の大規模な再開発に伴い閉店し、辰巳屋ビルの解体は22年春に始まる予定。施設はビル解体までの暫定利用で、街の活性化につなげる狙い。

木幡市長は「日常的な買い物だけでなく物産展や土産物もあり、観光客に対応できる。駅前のにぎわいを

つくる良い材料で、今後も協力して活性化を図る」と語った。いちいの伊藤信弘社長は自社と中合の関わりを踏まえ「中合閉店を残念に思い、活用に関わって役に立ちたかった」と出店への思いを明かし「いちいの持っている全てをつぎ込んでいく」と決意を語った。

中合はJR福島駅東口周